

2022年3月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

## 「活・人・経・営<sup>®</sup>」コラム第91回

### <活・人・経・営<sup>®</sup>を構想する>

弊社のコンサルティングは「活・人・経・営」を標榜しています。人が生き、人を活かす経営を基本的スタンスとします。由来は古今の企業経営者が語る「事業（企業）は人なり」です。今迄多くの企業の実態に触れ、経営が回り、常に前に進んでいる企業の特徴がこの4文字に凝縮されていることを日々実感しています。

**活**：成長している企業は、人や組織が活性化され、明るく元気です。

**人**：人材が人財に成長することにより企業価値は向上し、自己啓発も自主的に促進され、イノベーション創出のトリガー（きっかけ）になります。

**経**：経営の進め方には時（時代）を超えても外せない原理原則があり、これは経営の普遍的要素です。特に、経営理念の内容や事業を進めるための行動基軸などに反映されます。

**営**：企業の存在は顧客の存在が有って成り立ちます。常に顧客の立場に立ち、顧客ニーズの変化に対応し、市場を起こし続けなければなりません。

### <自他非分離的統合>

悟性（ロゴス）と感性（パトス）という質の異なる知性を統合して新しいイメージを作り出す創造的な知的能力、これが構想力である。構想力はイメージの自己組織能力だが、これまで一般に知られている自己組織現象のように「同種の活きを統合する活き」ではない。それはパトスとロゴスという種類の異なる活きを統合する活きである。舞台づくりとは、出会いの場づくりのことであり、舞台では、様々な役者が演じる多様な演技を受け入れて一つに統合し、それを即興劇としてイメージする想像力が必要になる。この即興劇を舞台設計から考えていく知的な活きが構想力である。言い換えると、構想力とは共創の場をイメージする想像力が必要になる。

— 出典：「場の思想」志水博著 —